

早稲田大学 政治経済学部 現代文 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分（現代文2問、古漢融合1問）
特徴・その他	（二）は大正時代の文章、（三）は、ほとんどの設問が空欄補充問題。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
（二）	長谷川天溪の文章	例年通り、明治・大正時代の文章が出題された。今回の文章も一定レベルの単語力がないと読みこなせないであろう。設問14、16、17も単語力が問われているのであり、受験生の日頃の努力が如実にあらわれ、その点で今回の問題も例年のように良問である。	標準
（三）	「知」について	「知」についてのテーマは最近の流行となっており、予備校の現代文の授業でも何度もやっているもので、ほぼ満点だった受験生も多かったことと思う。設問の形式は空欄補充問題が中心であるが、これも例年の通りであり、特に目新しいことではない。	標準

〔総合コメント〕

<p>（二）、（三）とも今までの政治経済学部の傾向に沿った素直な問題であり、かなりの高得点（8割以上）での勝負になると思われる。日頃、授業で強調していたように、一定の教養力、単語力が本番では問われるのであるから、地道な努力を軽視してはいけない。</p>
--